

<ご参考：OEKG ニュースリリース抄訳>

(現地時間：2024 年 10 月 14 日)

**オリンパス、クラウド型 AI 内視鏡画像診断支援システム 3 製品が
欧州で CE マークを取得
「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」の実現へ前進**

[オリンパス株式会社](#)（以下、オリンパス）の欧州における地域統括会社である [Olympus Europa SE & Co. KG](#)（以下、OEKG）は、グループ会社の [Odin Medical Ltd.](#)（以下、オディン・ビジョン社、本社：英国ロンドン）が開発したクラウド型 AI 内視鏡画像診断支援システム 3 製品が、欧州医療機器規則（MDR）に基づく CE マーク^{*1} 認証を取得したことを発表します。今回、CE マークを取得した「CADDIE（キャディー）」「CADU（キャドゥー）」「SMARTIBD（スマートアイビーディー）」は、オリンパスが内視鏡検査における臨床成果と業務効率の向上に貢献する上で、重要なマイルストーンとなります。

認証取得を受け、オリンパスが取り組む医療用内視鏡の新たなソリューション「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」の商業化に向けて大きく前進しました。「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」は、データと AI を活用して内視鏡検査中の診断をサポートし、業務効率の改善に貢献することを目的としています。このエコシステムは、ハードウェア・ソフトウェア・サービス・データを結び付け、内視鏡分野における医療課題の解決を目指します。

「CADDIE」^{*2*}^{*3} は、大腸内視鏡検査中に医師が大腸ポリープまたは初期の大腸がんが疑われる病変を検出および診断することを支援します。クラウドベースのコンピューター検出支援（CADe）とコンピューター診断支援 CADx）の両方の機能を搭載しており、病変の可能性が疑われる部分に対して医師による視覚的な判断をサポートします。

「CADU」^{*2} は、内視鏡検査中に医師がバレット食道の異形成を検出することをサポートします。

「SMARTIBD」^{*2} は、大腸内視鏡検査中に潰瘍性大腸炎の状態のスコアリング支援をする AI です。

3 製品ともオディン・ビジョン社の革新的なクラウド技術が応用された AI アルゴリズムで、クラウド経由でリアルタイムにデータを解析したり、ソフトウェアを更新したりする機能を備えています。また、いずれの製品も、医師が患者さんに対して行う診断行為を置き換えることを目的とした製品ではありません。

オリンパスは現在、クラウド型 AI 内視鏡画像診断支援システムのパイロットプログラムを欧州の一部の医療機関で実施しており、医療従事者や患者さんのアンメットニーズに対応できるよう実際の臨床現場で評価・改善を進めています。パイロットプログラムが終わり次第、2026 年 3 月期第 1 四半期に EMEA（欧州・中東・アフリカ）地域で 3 製品の商業化を開始する予定です。

詳細は、OEKG が 2024 年 10 月 14 日（欧州時間）に発表した[英文プレスリリース](#)をご参照ください。

- ※1 CE マークとは、製品が EU（欧州連合）指令の基準条件に適合していることを示すもの。
- ※2 「CADDIE」「CADU」「SMARTIBD」は、日本国内では医薬品医療機器等法未承認の製品です。
- ※3 「CADDIE」は、米国食品医薬品局（FDA）より CAdE 機能のみを対象に 510(k)認可を取得済みです。

オリンパスについて

オリンパスは「私たちの存在意義」として掲げる、世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を目指しています。世界をリードするメドテックカンパニーとして、私たちは医療従事者の方々と共に、病変の早期発見、診断、そして低侵襲治療に役立つ最適なソリューション・サービスの提供を通じて対象疾患における医療水準の向上に貢献してまいります。創業から100余年、オリンパスはこれからも世界中のお客様に最適な価値をもたらす製品を提供することで、社会への貢献を目指します。詳しくはオリンパスの公式サイト（www.olympus.co.jp）ならびにX（[@Olympus_Corp_JP](https://twitter.com/Olympus_Corp_JP)）をご覧ください。

